

2008.5.15.

平成19年度(20年3月期)決算の概要



株式会社 大光銀行

目 次

1.貸出金	1
2.預金・預り資産	2
3.収 益	3
(1)業務純益	3
(2)経 費	4
(3)経常利益	5
(4)当期純利益	6
4.不良債権	7
5.自己資本比率	8
6.業績予想	9

本資料の前年同期比の値は、表上の20年3月期、19年3月期各々の値にて計算しております。

1. 貸出金

貸出金残高は、前年同期比17億円(0.21%)増加し、8,185億円。
事業者向け貸出は減少したものの、個人・地公体向け貸出が増加。

(単位：億円)

項目	20年3月期 (A)	19年3月期 (B)	前年同期比 (C = A - B)	増減率 (C / B)
貸出金残高	8,185	8,168	17	0.21%
事業者向け	5,028	5,174	146	2.82%
地公体向け	614	503	111	22.07%
個人向け	2,542	2,490	52	2.09%
うち住宅ローン	2,282	2,198	84	3.82%

2. 預金・預り資産

預金残高は前年同期比88億円(0.77%)増加し、1兆1,579億円。
公金預金の取崩し等があったなか、個人預金は順調に増加。

預り資産は前年同期比51億円(4.66%)増加し、1,146億円。
投資信託が基準価額の下落により減少したが、公共債、生命保険は順調に増加。

(単位：億円)

項目	20年3月期 (A)	19年3月期 (B)	前年同期比 (C = A - B)	増減率 (C / B)
預金残高	11,579	11,491	88	0.77%
個人	8,658	8,461	197	2.33%
法人・地公体・金融機関	2,920	3,029	109	3.60%

(単位：億円)

項目	20年3月期 (A)	19年3月期 (B)	前年同期比 (C = A - B)	増減率 (C / B)
預り資産残高	1,146	1,095	51	4.66%
公共債	490	442	48	10.86%
投資信託	486	519	33	6.36%
生命保険	142	111	31	27.93%
外貨預金	26	21	5	23.81%

3. 収益

(1) 業務純益

預金利息の増加が貸出金利息の増加を上回り、資金利益が前年同期比 8億3千4百万円減少したものの、一般貸倒引当金純繰入が同10億5千3百万円の減少(増益要因)となったことなどにより、業務純益は同5億2百万円増加し、73億3千6百万円。

コア業務純益は、前年同期比 9億3千9百万円減少し、68億4千6百万円。

(単位：百万円)

項目	20年3月期 (A)	19年3月期 (B)	前年同期比 (A - B)
業務純益	7,336	6,834	502
コア業務純益	6,846	7,785	939

業務純益の主な変動要因

・増益要因 (単位：百万円)

項目	前年同期比
一般貸倒引当金純繰入	1,053
国債等債券損益	388

・減益要因 (単位：百万円)

項目	前年同期比
資金利益	834
経費	173

資金利益の増減内訳 (単位：百万円)

項目	前年同期比
預貸差利益 (-)	1,150
貸出金利息	898
預金利息	2,048
有価証券利息等	409
借入金利息等	93
資金利益 + -	834

(2)経費

人件費は、子会社業務の見直しにより出向者を銀行本体に復帰させたことなどから、前年同期比8千3百万円増加。

物件費は、システム関連費用等の増加により、前年同期比1億1千6百万円増加。今後もローコスト経営を目指し、経費の効率化・合理化を図る。

(単位：百万円)

項 目	20年3月期 (A)	19年3月期 (B)	前年同期比 (A - B)
経 費	14,078	13,905	173
うち人件費	7,976	7,893	83
うち物件費	5,503	5,387	116
うち税金	598	624	26

(3) 経常利益

経常利益は、前年同期比2億2千2百万円増加し、39億6千万円。
業務純益の増加、不良債権処理費用の減少等の増益要因が、株式等関係損益等の減益要因を上回ったことによる。

(単位：百万円)

項目	20年3月期 (A)	19年3月期 (B)	前年同期比 (A - B)
経常利益	3,960	3,738	222

主な増益要因

(単位：百万円)

項目	20年3月期 (A)	19年3月期 (B)	前年同期比 (A - B)
業務純益	7,336	6,834	502
不良債権処理費用	2,679	2,873	194

主な減益要因

(単位：百万円)

項目	20年3月期 (A)	19年3月期 (B)	前年同期比 (A - B)
株式等関係損益	442	46	396

(4) 当期純利益

法人税等税金費用の増加により、当期純利益は、前年同期比4千4百万円減少の21億8千8百万円。

(単位：百万円)

期 項 目	20年3月期 (A)	19年3月期 (B)	前年同期比 (A - B)
(資金利益)	20,203	21,037	834
業 務 純 益	7,336	6,834	502
経 常 利 益	3,960	3,738	222
(経常収益)	26,599	27,002	403
(経常費用)	22,638	23,264	626
特 別 損 益	209	8	217
税引前当期純利益	4,170	3,730	440
法人税、住民税及び事業税	1,151	699	452
法人税等調整額	830	798	32
当 期 純 利 益	2,188	2,232	44

4. 不良債権

景況悪化により、不良債権額は前年同期比13億円増加し、328億円。

不良債権比率は、前年同期比0.15%、19年9月中間期比0.18%増加し、3.95%。

(単位：億円)

項目	20年3月期	19年3月期比	19年3月期	19年9月期 (参考)
	金融再生法開示債権			
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	112	17	95	105
破綻先債権	35	20	15	18
実質破綻先債権	76	3	79	87
危険債権	167	6	173	164
要管理債権	48	2	46	40
小計(A)	328	13	315	310
正常債権	7,985	2	7,987	7,924
債権額合計(B)	8,314	11	8,303	8,235
不良債権比率(A/B)	3.95%	0.15%	3.80%	3.77%

5. 自己資本比率

自己資本比率は、利益の積増しや劣後債の発行により、単体・連結ともに前年同期比1.57%上昇し、11.41%。

Tier 比率は、単体・連結ともに8.79%で、十分な水準を維持。

(単位：億円)

項目		20年3月期	19年3月期比	19年3月期	19年9月期
単 体	自己資本比率	11.41%	1.57%	9.84%	10.07%
	Tier 比率	8.79%	0.26%	8.53%	8.76%
	自己資本	693	96	597	607
	リスクアセット	6,077	10	6,067	6,031
連 結	自己資本比率	11.41%	1.57%	9.84%	10.07%
	Tier 比率	8.79%	0.26%	8.53%	8.76%
	自己資本	695	97	598	609
	リスクアセット	6,095	10	6,085	6,048

6. 業績予想

(単位：百万円)

項目	通 期 (21年3月期)	
	連 結	うち単体
経 常 収 益	27,120	26,780
経 常 利 益	3,280	3,270
当 期 純 利 益	2,080	2,080

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものであり、経営環境の変化等により計画または予想の数値と異なる可能性があります。

(付)会社説明会のご案内

頭取が営業概況・戦略について説明します。

会 場	日 時	開 催 場 所
長岡会場	5月28日(水) 16:00～18:00 6月11日(水) 16:00～18:00	長岡グランドホテル 2階「悠久の間」 長岡市東坂之上町1丁目2番地1 (0258-33-2111)
新潟会場	5月29日(木) 16:00～18:00 6月 5日(木) 16:00～18:00	ホテル新潟 3階「飛翔の間」 新潟市中央区万代5丁目11番20号 (025-245-3334)
三条・燕会場	6月 3日(火) 16:00～18:00	燕三条ワシントンホテル 3階「錦の間」 燕市井土巻3丁目65番地 (0256-66-2000)
下越会場	6月 9日(月) 16:00～18:00	ホテル華鳳 コンベンションホール「黎明」 新発田市月岡温泉 (0254-32-1515)